

2016 年度

東京音楽大学民族音楽研究所公開講座

# 伊福部昭の

作曲家／元本学学長・民族音楽研究所所長

## 原点を探る

——ピアノ曲・歌曲・舞踊曲・箏曲——

司会・甲田潤  
(民族音楽研究所専任研究員)



伊福部昭筆

### 【I ピアノ曲】「日本組曲」演奏と思い出

■ Pf. 米田栄子 (本学専任講師)

### 【II 歌曲】 詩と音楽の出会い

■ お話・ 木部与巴仁 (詩人)

「平安朝の秋に寄せる三つの歌」 Sop. 弓田真理子

「シレットコ半島の漁夫の歌」 Bar. 根岸一郎

Pf. 中井徳子

### 【III 舞踊曲】「プロメテの火」再創造の過程

■ お話と映像・金井芙三枝 (舞踊家)

### 【IV 箏曲】 現代邦楽に刻んだ足跡

■ お話・野坂操壽 (箏曲家)

「物云舞」二十絃箏 滝田美智子 (本学講師)

2016年7月13日(水) 18時開演 17時30分開場

入場無料・全席自由 (先着約200名)

東京音楽大学J館スタジオ

主催：東京音楽大学民族音楽研究所



あの名曲は、あの舞台は、どのように生まれたのか？  
人と人、人と音楽、人と楽器、人と詩・踊りの出会いを探り、語る

写真・小林淳

# 伊福部昭 IFUKUBE Akira

作曲家／元本学学長・民族音楽研究所所長

1914年北海道生まれ。日本の近現代音楽を代表する作曲家、音楽教育家。戦前の札幌から音楽活動を始め、1935年、「日本狂詩曲」でチェレブニン賞、1943年、「交響譚詩」でビクター管弦楽賞受賞。敗戦後に上京。東京音楽学校（現・東京藝大音楽学部）講師を経て、1974年より東京音楽大学にて指導に当たる。1976年学長、1985年民族音楽研究所長就任。作曲分野は、管弦楽曲からギター曲、箏曲まで多岐にわたる。映画音楽、舞踊音楽でも活躍。著書に『音楽入門』『管絃楽法』がある。2006年没。



【代表曲】管弦楽曲「日本狂詩曲」「土俗的三連画」「交響譚詩」「シンフォニア・タブカーラ」、協奏曲「ヴァイオリン協奏曲」1番・2番「二十絃箏との交響的エグログ」「ピアノとのリトミカ・オスティナータ」「マリンバとのラウダ・コンチェルタータ」、舞踊曲「日本の太鼓 鹿踊り」「サロメ」「人間釈迦」、さらに多くの歌曲、ヴァイオリン・ソナタ、箏曲、ギター曲などがある。

## 【I ピアノ曲】「日本組曲」演奏と思い出

伊福部昭19歳の筆になる「日本組曲」。初録音は本学制作のLP盤だった。その演奏者、米田栄子による演奏と、録音時の師の思い出を。

### ■ 米田栄子 YONEDA Eiko (ピアノ・本学専任講師)



広島県出身。井口愛子・ピヒト＝アクセンフェルト・北川正各氏他に師事。桐朋学園大学音楽学部卒業、「音楽賞」受賞。第42回日本音楽コンクール入選。第44回読売新人演奏会出演。日本ショパン協会例会「日本のピアノ曲」に出演し伊福部昭作曲「ピアノ組曲」演奏。その後、同曲を東京音楽大学企画「現代日本の音楽」にレコード収録。リサイタル・室内楽・オーケストラとの協演等国内外で演奏。現在、東京音楽大学専任講師。

## 【II 歌曲】詩と音楽の出会い

近年楽譜が発見された19歳時の歌曲「平安朝の秋に寄せる三つの歌」と、更科源蔵の詩による代表曲「シレットコ半島の漁夫の歌」の世界。

### ■ 木部与巴仁 KIBE Yohani (詩人)



「伊福部昭 音楽家の誕生」（新潮社）「伊福部昭の音楽史」（春秋社）等を上梓。2016年1月、ディスクアッシュ・イベント「伊福部昭 21世紀」開催。作曲家、演奏家と「詩と音楽を歌い、奏する「トロッタの会」」を運営（6月11日のトロッタ23を経て24を12月初旬開催予定）。「ダンス、詩、音楽による「メドゥサの環wa」」を運営（次回メドゥサ4は9月初旬開催予定）。7月7日、ギタリスト土橋庸人と「伊福部昭全ギター曲を踊る」開催予定。

### 弓田真理子 YUMITA Mariko (ソプラノ)



洗足学園音楽大学声楽科卒業。同専攻科修了。数多くのオペラのプリマ、オーケストラ・コンサートのソリストのほか、伊福部昭や松村禎三の歌曲に作曲家自らの指導の下に取り組み、「伊福部昭・文化功労者顕彰記念演奏会」などのステージに出演した。2007年、皇居において天皇皇后両陛下、皇太子御夫妻をはじめとする皇族方の御前で洋楽演奏会に出演。二期会、横浜シティオペラ、東京室内歌劇場各会員。福島オペラ協会理事。

### 根岸一郎 NEGISHI Ichiro (バリトン)



武蔵野音楽大学声楽科、早稲田大学文学部卒業。パリ第IV大学比較文学修士。フランス音楽コンクール、日仏音楽コンクール、ソーゲ国際コンクールに入賞。トロッタの会・北海道演奏会「摩周湖の歌」などで作曲・伊福部昭＝詩・更科源蔵による歌曲全曲演奏を果たす。伊福部昭団体歌全曲集（ピアノ 河内春香）をCDリリース予定。日本フォーレ協会、コンセル・C、東京室内歌劇場会員。ヴォーカル・アンサンブルカペラ他メンバー。

写真：橋 さらら

### 中井徳子 NAKAI Noriko (ピアノ)



東京生まれ。4才よりピアノを始め、伴紀子氏に師事。桐朋学園大学附属音楽教室に入室し、上池倭子氏に師事。東京音楽大学付属高等学校、同大学卒業。同大学研究科ピアノ伴奏者コース修了。三宅民規氏の元で研鑽を積み、井上將興氏(Vn)、寺川信生氏(オペラ指揮者)等、先達の影響を受け、アカデミックな演奏を目指す。ピアノ・デュオ、弦楽器奏者、声楽家とのリサイタル、室内楽、録音等、幅広い演奏活動を行う。

## 【III 舞踊曲】「プロメテの火」再創造の過程

2016年、半世紀を経て復活上演された江口隆哉との歴史的舞踊作品。芸術監督が最新の舞台映像を用い、復活のプロセスをあまねく語る。

### ■ 金井芙三枝 KANAI Fumie (舞踊家)



江口隆哉門下。'67年「砂の女」で芸術祭奨励賞。'73年文化庁派遣在外研修員としてアメリカ、ドイツに留学。'89年内閣総理大臣賞。'92年石井漠賞。'98年松山バレエ団頭賞「芸術賞」。'99年「樹魂」江口隆哉賞。2001年、文化庁長官表彰。03年、旭日小綬章。代表作：「砂の女」「樹魂」「嵐が丘」「風林火山」「40億年の旅路」「いのちの声」「クラスメート」「可愛い女」。日本女子体育大学名誉教授。(一社)現代舞踊協会常務理事。

## 【IV 箏曲】現代邦楽に刻んだ足跡

野坂操壽は二十絃箏から二十五絃箏の開発と合わせ、作曲者の箏曲世界を担った重要な演奏者だ。師の思い出を語り、代表曲を解説する。

### ■ 野坂操壽 NOSAKA Soju (箏曲家)



9歳で加藤柔子氏に古典箏曲・地唄三絃を師事。東京藝術大学修士課程修了。1969年二十絃箏を開発。1991年二十五絃箏を発表。2000年ミュージックペンクラブ最優秀コンサート・パフォーマンス賞(1999年伊福部昭作曲「琵琶行」初演に対し)。2002年芸術選奨文部科学大臣賞。2003年紫綬褒章。2011年日本藝術院賞。2015年文化功労者。古典の継承と同時に二十五絃箏のための委嘱初演を続けている。

### 滝田美智子 TAKITA Michiko (二十五絃箏・本学講師)



1968年より野坂操壽氏に師事。NHK邦楽技能者育成会22期修了後、日本音楽集団入団。在学中に第3回、第4回パムジークフェスティバル邦楽器コンクール独奏部門において第三位、第一位、ドイツ大使賞受賞。現在まで二十五絃箏リサイタルを5回開催する。東京音楽大学講師、桐朋学園芸術短期大学特任教授、国立音楽大学講師。オーケストラアジアメンバー、生田流箏曲松の実会師範、日本三曲協会、生田流協会会員。



## 【東京音楽大学民族音楽研究所】

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷 3-11-1

Phone. 03-3981-8783

www.mincken1975.com/

\*民族音楽研究所とは 伊福部昭により 1975年開設。伊福部の生まれ故郷・北海道でアイヌ民族の音楽に多大な影響を受けたことから、アイヌ音楽の研究を主な研究課題として出発。現在はインドネシアのガムラン音楽や沖縄の伝統音楽等、アジア地域における民族音楽へと研究範囲を広げている。